

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所  
事業所名 (佐久市立青沼保育園)

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>□ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	○佐久市全体の保育園に共通した保育理念と目標はありますが、青沼保育園独自の理念として、「生き生きと活動する経験を通して望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」と掲げていました。  ○入園しおりには基本的な保育園の役割りをまず明記し、保護者と保育士の共通理解を図っています。続けて「あいさつのできる、遊びこめる、話の聞ける子ども」といった青沼保育園の保育目標を3つあげて、「より豊かに育つために」と7つの項目に保育方針がまとめてありました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	○各保育室は南向きで、明るく、直接園庭に出られるようになっていて、西側には畑と花壇が造られていました。子どもたちと一緒に花や野菜を育てて、身近で色々な体験ができるような環境が整っていました。  ○トイレや手洗い場は北側になっていますが、カラフルな色あいで明るく、掃除も行き届き清潔感のあるトイレで、子どもたちが楽しく使っている様子が伺えました。  ○木造建築であたたかみのある遊戯室は、広々といつでも飛び回れる環境が整っていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>○子どもたちは0歳児から、5・6歳児までの26名を預かり、園長と調理員2名を含めた7名で、家庭的な雰囲気を大切に運営されていました。</p> <p>○少人数なので一人ひとりの顔をしっかりと把握できて、食事の場でもゆっくり会話を楽しみ、個々のペースでゆったりとした雰囲気の中、食事を摂っていました。最後には、保育士からおかわりありますよと声を掛けられ、元気にお替わりを楽しんでいる様子が伺えました。</p> <p>○子どもたちへ「そろそろ自分の席に座ってみようか」と、柔らかい声掛けで食事前の着席を促していました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>○家庭的雰囲気の基、異年齢児との関わりが常にある環境の中で、食事前にかけエプロンの紐も互いに結び合う様子が見られるなど、思いやりや助け合う心が自然に培われている様子が伺えました。</p> <p>○外遊びから戻った子どもたちに、保育士の声掛け一つで、手洗いやトイレに一斉に向かい、基本的な生活習慣を団体生活の中で身につけていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○畑で収穫したサツマイモは、すでにきれいに洗って並べられ、焼き芋を楽しむ準備ができていました。また遊戯室裏にある柿の木に実った大きな柿も、木登りの好きな子どもは上部の柿をもぎ、下部に実った柿は未満児の子ども達もぐようにして、園全員で収穫を楽しめるような企画を毎年行っていました。</p> <p>○散歩の機会には、昆虫入れのような透明なビニールのシートを貼ったかごを肩から掛けて出かけています。何を拾って入れても楽しめるような手作りかごが工夫され、遊びの中から自然に親しめる、わくわくできるような戸外時間を提供していました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>□ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>□ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>□ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>□ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○朝は園庭に保育園児全員で1つの輪になって、からだを動かしている姿がみられました。0歳児は保育士におんぶされ、未満児から年長までの関係性が育まれている様子が伺えました。</p> <p>○未満児研修会に職員は参加して保育方法を学び、0歳児への声掛けを大切に関わっていました。保育士も子育ての経験のあるベテランな方を配置して、適切な対応に心掛けていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○保育室に小さく囲われた部屋が設けられ、0歳児が静かに休めるようになっていました。</p> <p>○1歳児4名、2歳児3名に0歳児1名を保育士2名が関わっていますが、特に食事場面では離乳食の様子を把握しながら、調理員も一緒に関わっている様子が伺えました。</p> <p>○未就児交流として、児童館で行なわれている子育てサロンと合同で「たまごちゃん会」が年間5回開催され、近所に暮らしている未就児の家庭への呼びかけにも心掛けていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○身近で興味を持てるように、畑ではサツマイモを育てて収穫して焼き芋を楽しんだり、花壇で育てた花はドライフラワーにして卒園記念品のコサージュを作ったり、子どもたちの興味と創造性を養って色々な工夫がみられました。</p> <p>○特に秋の運動会は世代間交流として、未就児やその保護者、祖父母、兄弟にも声を掛けて、競技にも参加してもらって盛大に行われていました。今年はいいにくの雨で、すぐ裏にある小学校の体育館で行われました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	○障害児と診断を受けた子どもの利用はないようです。グレーゾーンの発達障がい系の子どものについては、市の「はぐくみ相談」の助言を仰ぎ、その子どもに応じた保育を行っていました。  ○毎月行っている発達支援研修会で知識を学び、今後の保育に役立する努力を行っていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○長時間保育を利用している保護者からは、「安心して預けて迎えに行ける雰囲気を作って頂き有難い」とのコメントもありました。その日の細かい報告も受けられ、保育士全体の統一した対応に満足されている意見ばかりでした。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○保育園裏の道をはさんで隣接する小学校と、夏祭りにはお化け屋敷作って小学生を招いたり、秋の収穫祭ではハロウィンで仮装した園児が園で作ったポップコーンを持って、小学校に向いてプレゼントするなど交流をしていました。</p> <p>○小学生が保育園を訪問して、読み聞かせや縄跳びやゲームを教えてもらったり、小学校の収穫祭でついたお持ちを持ってきてくれるなど、多彩な交流が実施されていました。</p> <p>○12月から1月にかけて、小学校から校長・教頭先生をはじめ、1年生の担任が参観に来て、年長児一人一人の様子を聞き取っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもに関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○入園しおりに、感染症に対する決まりのことは、18種の病名から説明があり、登園可能な目安の表記がわかりやすい説明で明記されていました。</p> <p>○特に感染症関係の病気が出始めた時には、注意を喚起した対応に心掛けていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○毎月の身長、体重測定の実施し、内科・歯科・眼科検診は毎年実施されていました。登園後ま毎日視診を行ない、少しでも変化がある場合は園長に伝えて、相談しながら保護者に連絡するなど慎重な対応に心掛けていました。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○子育て支援課に席をおいている栄養士が、市内の保育園に統一した献立を作っていました。毎月献立会が開かれ、特に食物アレルギーで食品除去が必要な場合は、医師からの生活管理指導表を提出し対応していました。</p> <p>○青沼保育園では食物アレルギーで味噌、豆腐、油揚げなどの7品目を除去する園児の対応をしており、市の給食部会では、子どものための食事作りやアレルギー疾患、心の栄養などの題材で勉強会も開かれていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○誕生日会のメニューで「盛り付け先生」を参考に盛り付けを工夫したり、人参を花形に切るなど、園児が楽しめる調理に心掛けている様子が伺えました。</p> <p>○畑で収穫した野菜はカウンターに並べて子どもたちに伝えて、キャベツ、ピーマン、ナス、キュウリ、ミニトマトなど、食事やおやつに単品で添えて楽しんでいました。</p> <p>○未満児の離乳食に気を配り、食事摂取状況を確認して、パンなどの大きさ、量などに配慮して提供をしていました。</p> <p>○各保育園から出た希望献立は、子どもたちの楽しみになっていました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子ども食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○県産や地元佐久市の物も使っていますが、業者から取り寄せる野菜等は、他県の物が多いようでした。</p> <p>○小人数で個々の希望を聞き、好き嫌いの多い野菜の苦手な子どもには、野菜の少なめのところを盛り付けたり、誕生会のメニューは、目でも楽しんで頂けるように盛り付けの工夫を行っていました。</p> <p>○調理員は基本1名で行なっていましたが、離乳食や食物アレルギーの子どもが入ってきて対応が大変になり、園長に頼んで市に交渉してもらい、現在は調理員2名で行なっていました。</p>



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○アンケート結果でご家族の皆さんは、保育士の日々の対応ややり取り、連絡帳への細かな記載等に変満足されています。</p> <p>○祖父母参観日、夏祭りや遠足、近隣保育園との交流会、近くの寺院への散歩と寺院内の見学などの行事等は、事前に配布されるプリントで、内容や持ち物の説明がされていました。</p> <p>○掲示板では、イベントの様子を写真付きで掲示して伝えていました。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○少人数の利点として、日々の引継ぎと個々への対応が行き届き、職員と保護者との信頼関係も確立できて、安心して預けられる保育園となっていました。</p> <p>○保護者アンケートの自由意見には、少人数での心配はありましたが、実際に利用してみると保育園側の対応と、誰にでも相談しやすい職員の雰囲気に変満足していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	○保育児童の人数が少なく、日々の引継ぎや連絡帳でのやり取りも密に行ない、虐待案件についても、早期発見、早期対応ができる環境になっていました。今後、各機関との連携を図り、マニュアル化に向けた取り組みをお願いします。
	3 保育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○自己評価を行ない保育士一人ひとりが保育士として、また保育所としての振り返りを行っていました。園長が職員全体を把握して、保育の専門性を高めようと努力してしている様子が伺えました。</p> <p>○引き続き自己評価を実施して青沼保育園の理念を振り返ると共に、日々の保育実践の振り返りを職員間で行ない、一人では気づけなかった保育の良さや課題を見つけ出して、その共有を図っていました。</p>